

町村に伺いました

訪問の様子とトピックスを随時お伝えしていきます。
更新をご期待ください。

-町村の皆さんからお話を伺いました- No.7

浦幌町役場

R2.6.8

今回の訪問では、乳幼児の健診体制が整い、早期療育が行われている状況を確認することができました。高校がないため、中学校卒業以降のフォローアップ体制が途切れてしまう課題に対し、町の保健師の健康相談などによって、潜在化しているニーズをキャッチしているとのことでした。

また、既存の障がいをお持ちの方が集うサロンなどの活動で関わりを持っている方の、「将来的に仕事に就きたい」という希望に対し、地元企業・町民への障がいの理解啓発が必要とのことでした。そのため、町内でできる職業体験などを通じ、ご本人への就職に対する気持ちの引き上げと、企業の理解を促進することも検討してはどうかといった話題にもなりました。

保健福祉課 社会福祉係 係長の長尾さん（右）、
同じく 社会福祉士・相談支援専門員の竹村さん
（左）にご対応いただきました



喫茶ふわり

R2.6.8

「豊頃はるにれ友遊館」の中にある喫茶ふわりは平成 22 年に開店しました。障がいを持つ方や家にいる生活を送っていた方達に対し、社会との接点を持つ場、自立のお手伝いをする場所として運営しています。コーヒーなどのドリンクメニューのほか、ホットケーキ、カレー、うどんなどメニューも増えているとのことでした。

現在は、コロナウイルスに関する自粛に伴い月・水・金の営業ですが、間もなく通常通りの営業に戻るとのことです。営業時間は 10 時～15 時 30 分です。どうぞ、ご利用ください。

宮脇さんにお話を伺いました



豊頃町役場



R2.6.8
福祉の資源がないため、ソフト面の整備として送迎を社協に委託し、町外の福祉サービスを利用しやすい体制を整えている状況をお聞きました。現在学齢期にある児童が卒業することを見据え、福祉サービス等のハード面の整備を課題としてとらえているものの、人材不足の課題が大きいことを知りました。一般的な仕事の担い手はもちろん、福祉専門職の求人を出しても応募者がいない状況が続いていることから、人材の確保が急務であるとお話でした。

また、規模の小さな町共通の話題として、当事者から相談が上がりにくい状況があります。幼少期からの関わりが途切れてしまうがゆえに、大人になってから何らかの問題で地元に戻られる方に対し、町として障がいの理解を進める必要性を課題と感じているとのことでした。

福祉課 課長の下重さん（左）、
同じく 福祉課長補佐兼福祉係長の丹羽さん（中）、
同じく 主事補の村田さん（右）にご対応いただきました



中札内高等養護学校幕別分校



R2.6.8
令和元年度卒業生の進路の確認と、卒後3年を迎えた就職者の引継ぎについて確認しました。その中で、卒業生以外の障がい者雇用をされている方の把握も、地域として連携して進めていくことが必要であるという話題になりました。障がい者雇用のニーズが高まる一方、支援のマンパワーには限りがあります。そのような中、どの関係機関が企業や相談者から寄せられる情報をキャッチしても、共有ができ、支援の体制が組める地域であることが大切であると確認しました。その支援体制と情報を共有出来る信頼関係が作れる地域を目指している意気込みが、先生たちのガッツポーズに表れています。

左から進路指導・支援部の高崎先生、
山中先生、林先生にご対応いただきました



今回は、東十勝に伺いました。2町の共通の課題として、幼少期から中学卒業までは、健診から発達支援センターのフォローによる把握がされているにもかかわらず、高校進学で他市町村を選択せざるを得なく、把握が途切れてしまうということが聞かれました。卒業しても受け皿がないために地元に戻ることができない状況は、障がいがある方のみならず一般の方にも起こり、人材不足の大きな要因となっているようです。

地域を離れなくてはならない状況と、その後戻ったとしてもフォローが途切れ、状況の把握ができなくなっているという課題は、どの町村でも起こりうることです。また、住民の顔が見える関係性があり見守りができる半面、知られすぎることに不安を感じて相談につながりにくいこともあるようです。

現在は、他町で日中活動のサービスや入所施設などを利用できている状況ですが、5年10年先を考えた時、町内の資源は必要なのか、福祉サービスを作る必要性はどの程度なのかを検討する必要があるかもしれません。